

令和5年度 地域の実情を踏まえた体験活動事業
森の子キャンプ

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
- [期 日] 令和5年12月16日(土)～17日(日)
- [対象者] 小学5～6年生
- [参加/募集] 15名/20名
- [講 師] 山本 剛 氏(西垣林業株式会社)
- [担 当] 福島 茂樹(企画指導専門職)
小西 岳勝(企画指導専門職付職員)
福田 卓 (事業推進係主任)



1 趣 旨

- ・林業体験などのプログラムを通して森のしくみについて知り、環境についての興味関心をもつ。

2 ねらい

- ・林業体験や野外炊事などの活動を通して木材の活用や森のしくみについて学ぶ。
- ・プログラムを通し、環境を守ろうとする態度を育てる。

3 プログラム展開

1日目	10:00	11:00	12:00	13:00	17:00	19:00	21:30
	榛原駅集合 (現地集合可)	はじまりの会	昼食 (施設弁当)	林業体験、薪作り	食事/入浴 (食堂・浴室)	ナイトハイク	就寝
2日目	6:00	7:30	9:00	12:00	13:30	14:45	
	起床	朝食(食堂)	火おこし体験 昼食作りに挑戦	昼食・片付け (野外炊事)	おわりの会	榛原駅解散(現地解散可)	

4 活動の様子



5 まとめ(参加者の感想)

- ・空気の通り道ができるように、薪のくべ方が大事だと初めて知りました。火が燃えるには「空気、熱、燃料」が必要だということがよくわかりました。
- ・かわいた木の方が火がつきやすいとわかりました。かわいた木と昨日切った木で比べると昨日切った方の気が重かったです。
- ・昨日切った木より、昨年切った木の方がもえやすいことがわかりました。
- ・水をふくんだ薪はわりにくかったけどかわいた薪はすぐにわれた。薪をわるときは思ったより力があると感じた。
- ・太い薪はわりにくかった。木をたおすところを初めて見てすごいなと思った。のこぎりで切るときに力があるからつかれて、のこぎりを引くときがかたくて難しかった。